

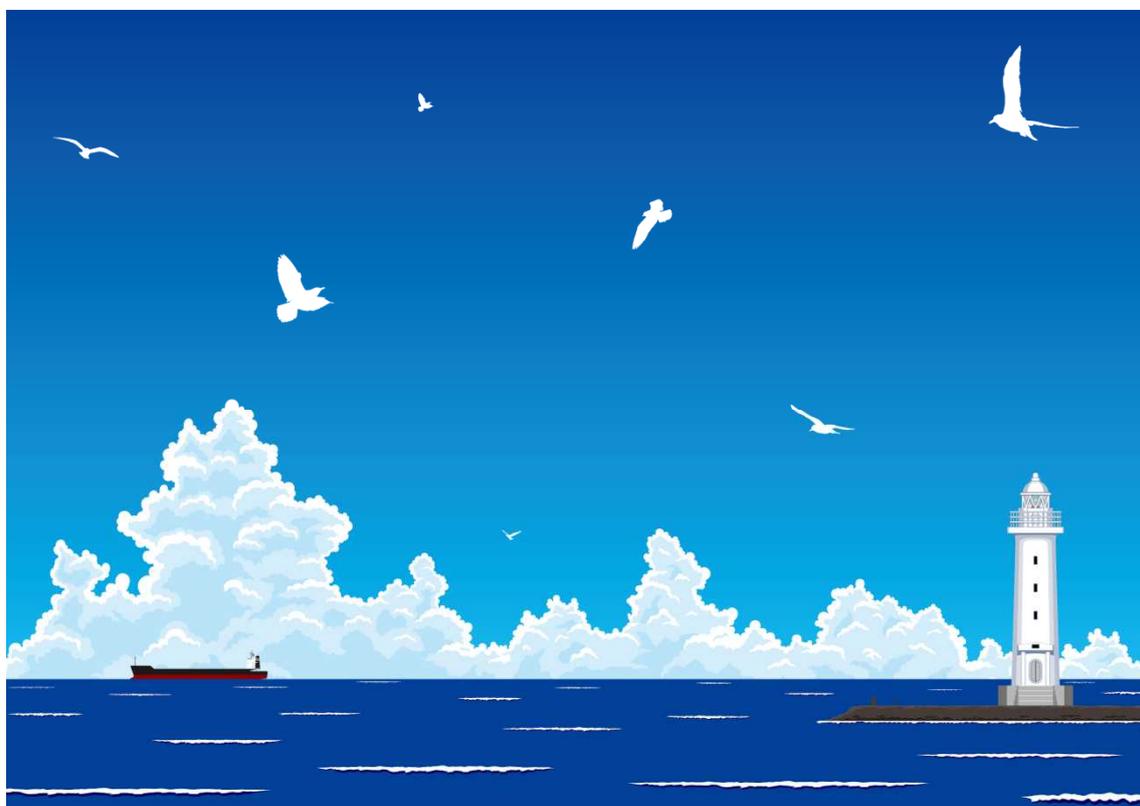
愛媛大学

工学部附属船舶海洋工学センター

Center for Naval Architecture and Ocean Engineering

年報

第2号 2019年度版



まえがき

令和2年度から、2代目のセンター長を務めさせていただくことになりました。愛媛大学工学部はこれまでに、昭和49年から平成3年まで海洋工学科を設置し、特色ある教育研究を行ってまいりました。また、平成20年からは大学院理工学研究科博士前期課程に今治造船様の寄附講座により船舶工学特別コースを設置し、造船業を担う技術者・研究者を多数輩出しています。こうした背景を承継する形で、平成30年に愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターが開設されました。

今後も当センターは、学部学生への造船の専門教育に軸足を置き、地元企業のご協力を得ながら、地域産業が抱える課題に対し共同研究を推進するとともに、諸課題解決に貢献できる人材を育成し、地域に愛され地域に必要とされるセンターとなることを目指します。今後とも本センターにご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年7月

愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センター

センター長 田中 進



目 次

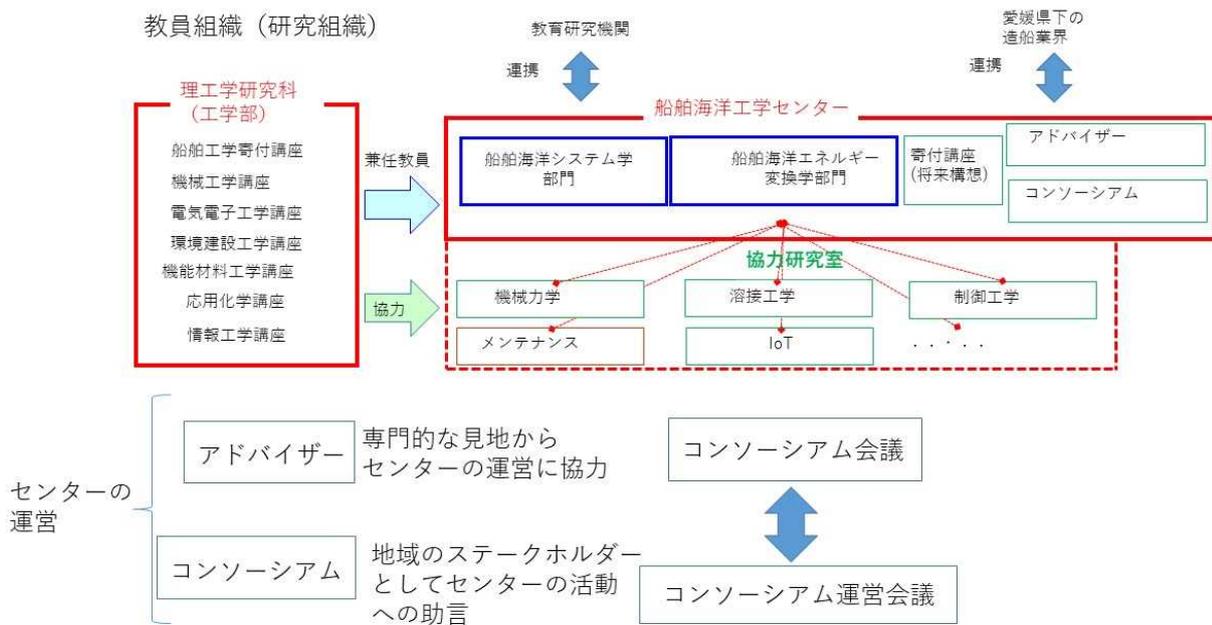
1. 概 要	1
2. 組 織	2
3. 活動記録	4
4. 設備・備品(令和元年度購入分)	9
5. 船舶海洋工学センターコンソーシアム運営会議	10
6. 船舶海洋工学センターコンソーシアム会議	10
7. 船舶海洋工学センター運営委員会	10
8. 報道関係(新聞記事・テレビニュース等)	13
9. 規 程	14

1. 概要

愛媛大学工学部は、船舶や海洋人工物を設計するために必要な高度技術を修得するとともに、創造力を発揮しイノベーションを起こすことができる人材を育成するため、愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターを設置しました。

造船業・海運業の課題に対し共同研究を推進するとともに、学部3・4年次生の専門教育において地域企業の意向を反映させた科目群や、これら課題に取り組む卒業研究、また、造船業・海運業への就職活動支援を意識して、短期・長期インターンシップやキャリアセミナーを実施します。

船舶海洋工学センターの構成



2. センター組織

工学部附属船舶海洋工学センター 構成員

令和2年3月31日現在

役職	所属部門	講座名	役職	氏名	専門
センター長	船舶海洋システム学	機械工学講座	教授	豊田 洋通	特殊加工 溶接・接着 表面処理
副センター長	船舶海洋エネルギー変換学	機械工学講座	教授	中原 真也	燃焼工学一般 熱機関一般 水素・天然ガス等有効&安全利用
兼任教員	船舶海洋システム学		教授	小原 昌弘	溶接・接合 メタラジー 鉄鋼材料
		機械工学講座	教授	田中 進	船舶海洋工学 船舶運動制御 船舶艦装設計
		機械工学講座	教授	柴田 論	制御工学 人間工学 人工知能
		機械工学講座	准教授	有光 隆	材料力学一般 弾性力学 科学技術教育
		機械工学講座	教授	朱 霞	材料力学一般 材料加工学 材料強度学
		機械工学講座	准教授	玉男木 隆之	機械力学 衝撃工学 プラスチック材料の特性評価
		機械工学講座	准教授	松下 正史	機械材料 磁気体積効果 金属材料
		機械工学講座	助教	穆 盛林	システム・制御工学一般 制御機器 ロボット工学
		環境建設工学講座	教授	中畑 和之	構造動力学 数値計算 振動・音響一般
		機能材料工学講座	教授	井堀 春生	電気電子材料 高電圧工学 光学計測
		機能材料工学講座	教授	小林 千悟	金属組織工学 金属腐食工学 金属強度学
		機能材料工学講座	教授	藤井 雅治	電気電子材料 高電圧工学 プラズマ工学
		機能材料工学講座	准教授	水口 隆	溶接・接合 鉄鋼材料 金属組織
		応用化学講座	教授	朝日 剛	レーザー分光分析 レーザー加工 光化学
		電気電子工学講座	教授	都築 伸二	LPWA無線を用いたIoT 電力線通信(PLC)等の有線通信 スマートグリッド
	情報工学講座	教授	二宮 崇	自然言語処理 パターン認識 人工知能	
	情報工学講座	助教	田村 晃裕	自然言語処理 人工知能 機械学習	
	船舶海洋エネルギー変換学	機械工学講座	教授	野村 信福	熱工学 エネルギー工学 プラズマ科学
		機械工学講座	准教授	岩本 幸治	流体力学一般 エネルギー利用と環境との関係 流体機械一般
		機械工学講座	准教授	向笠 忍	伝熱 エネルギー工学一般 プラズマ
		環境建設工学講座	教授	日向 博文	沿岸海洋物理 海洋環境 海岸工学
		電気電子工学講座	教授	神野 雅文	プラズマ科学 照明科学(交通照明) プラズマライフサイエンス
		電気電子工学講座	准教授	池田 善久	プラズマ科学 照明科学(交通照明) 光学シミュレーション
情報工学講座		准教授	岡野 大	数値解析 複素関数論 最適化法	

役職	現職	氏名
アドバイザー	大阪大学大学院工学研究科 教授	柏木 正
	九州大学 名誉教授	豊貞 雅宏
	大阪大学 名誉教授	南 二三吉
	大阪大学 名誉教授	村川 英一
	新居浜工業高等専門学校 教授	日野 孝紀
	新居浜工業高等専門学校 教授	松田 雄二
	九州大学大学院工学研究院 教授	柳原 大輔

3. 活動記録

1. 工場見学会への参加

- 4月3日 浅川造船株式会社 参加：学生17名，教員7名
- 5月24日 今治地区造船所，バリシップ 参加：学生18名 教員1名
- 8月9日 今治造船株式会社・BEMAC株式会社 参加：学生92名
(主催：四国運輸局 愛媛運輸支局 今治海事事務所)

2. 卒業研究を実施

- ・実船計測：工学部4回生3名が浅川造船株式会社・檜垣造船株式会社と実船計測を共同実施。
- ・機械学習を用いた船体形状設計：「ニューラルネットワークによる逐次推定を利用した船体設計」というテーマで工学部4回生2名が回流水槽による抵抗計測を実施。

3. 4月～5月 コンソーシアム参画企業(8社)を訪問

教員の研究シーズ紹介，各社の技術課題について意見交換及び共同研究提案。

4. 5月23日～25日 バリシップ2019に参加(テクスポート今治他)

ブースを出展し，センターの概要や役割についてパネルを使って説明。

5. 6月8日 愛媛県技術士会・CPDセミナーにて講演(えひめ共済会館)

田中進教授が「船舶の安全航行と環境保全技術」について講演。

6. 7月3日 センターコンソーシアム運営会議を開催(今治地域地場産業振興センター)

コンソーシアム会議における審議，報告内容及び代表者会議に依頼する事項について確認後，意見交換を行った。

7. 7月3日 第1回センター技術連絡会を開催(今治地域地場産業振興センター)

高橋寛教授が「AI+IoTの導入・活用のための基礎的な学び」，柴田論教授が「人にやさしい知能機械」と題し講演を行い，コンソーシアム参画企業から約40人が参加。

8. 8月19日～8月30日 インターンシップの実施

工学部3回生2名が株式会社新来島どっくにて，インターンシップを実施し，単位取得。

9. 8月23日 センターコンソーシアム会議を開催(今治地域地場産業振興センター)

センターの平成30年度の活動内容及び今年度の活動計画について報告。

10. 8月23日 センターシンポジウムを開催（今治地域地場産業振興センター）

センターアドバイザー及び九州大学名誉教授・豊貞雅宏氏が「疲労寿命設計の問題点と革新的寿命評価法—疲労過程を現行ブラックボックスからホワイト化へ—」, 次いでデンソーソリューション SCM 改革部長 國定宏明氏が「JIT 物流システムについて」と題し講演を行い, コンソーシアム参加企業から約50人が参加。

11. 9月6日 中四国伝熱セミナーにて講演（ウェルピア伊予）

田中進教授が「船の安全と海の環境保全に向けて」について講演。

12. 10月～ 授業2科目を新規開講

愛媛大学工学部機械工学科及び情報工学科3年生後期の発展科目に, 船舶性能入門・海洋工学入門の2科目を新規開講。

13. 11月6日 第2回センター技術連絡会を開催（みなと交流センター）

豊田洋通船舶海洋工学センター長が「液中プラズマの紹介と造船への応用」, 愛媛大学工学部・岩本幸治准教授が「流れ場をクラスタリングする方法」と題し講演。次に, 都築伸二教授が「IoT時代における産学官連携の新たな可能性」について講演後, 一般社団法人九州テレコム振興センター専務理事・広岡淳二氏がSCOPE事業の事例等について報告し, コンソーシアム参加企業から約40人が参加。

14. 12月6日 センター特別講演会を開催（愛媛大学工学部）

今年度後期より機械工学科及び情報工学科3年生向けに新規開講された「海洋工学入門」の授業内で, 東京大学名誉教授・木下健氏が「海洋再生エネルギー利用の現状と今後の展望」と題し講演。コンソーシアム参加企業の方, センター兼任教員らも参加。

15. 12月17日 高大連携活動（出張講義）を実施（今治工業高等学校）

田中進教授が「海を隔てたエネルギー及びデータ・電力輸送」と題し大学連携講座（造船系）を実施。

16. センターと四国溶材株式会社との共同研究を開始

センター所属の水口隆准教授と小原昌弘教授の研究グループが四国溶材株式会社との間で, 溶接技術の開発に関する共同研究契約を締結。

17. 今治地区造船・船用企業への工学部及び大学院理工学研究科の学生の就職状況

別紙の就職実績（学部生, 大学院生）（2020年5月1日付）が得られた。
（県内就職者80名・うち今治就職者8名）

今治市の企業への就職実績(学部生)

別紙

令和元年度卒業生

令和2年5月1日現在

会社・官庁名	合計	機械		電気電子		環境建設		機能材料		応用		情報	
		工学科		工学科		工学科		工学科		化学科		工学科	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
BEMAC(株)	1			1									
(株)新来島どつく	1							1					
今治造船(株)	1				1								
浅川造船(株)	1			1									
檜垣造船(株)	1							1					

平成30年度卒業生

会社・官庁名	合計	機械		電気電子		環境建設		機能材料		応用		情報	
		工学科		工学科		工学科		工学科		化学科		工学科	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
潮冷熱(株)	1			1									
渦潮電機(株)	2			1								1	
今治造船(株)	1	1											
(株)新来島どつく	4	1		2				1					

平成29年度卒業生

会社・官庁名	合計	機械		電気電子		環境建設		機能材料		応用		情報	
		工学科		工学科		工学科		工学科		化学科		工学科	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
太陽石油(株)	3			2						1			
波方ターミナル(株)	1									1			
渦潮電機(株)	2			2									
(株)新来島どつく	1									1			
今治造船(株)	1			1									

平成28年度卒業生

会社・官庁名	合計	機械		電気電子		環境建設		機能材料		応用		情報	
		工学科		工学科		工学科		工学科		化学科		工学科	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
太陽石油(株)	1			1									
渦潮電機(株)	1	1											
(株)新来島どつく	1			1									
今治造船(株)	2	2											
浅川造船(株)	1	1											
あいえず造船	1							1					

平成27年度卒業生

会社・官庁名	合計	機械		電気電子		環境建設		機能材料		応用		情報	
		工学科		工学科		工学科		工学科		化学科		工学科	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
太陽石油(株)	1							1					
潮冷熱(株)	2							1				1	
渦潮電機(株)	4			3						1			
(株)新来島どつく	1							1					
今治造船(株)	1	1											
浅川造船(株)	1											1	
四国ガス(株)	1									1			

平成26年度卒業生

会社・官庁名	合計	機械		電気電子		環境建設		機能材料		応用		情報	
		工学科		工学科		工学科		工学科		化学科		工学科	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
四国溶材(株)	1									1			
潮冷熱(株)	1											1	

平成25年度卒業生

会社・官庁名	合計	機械		電気電子		環境建設		機能材料		応用		情報	
		工学科		工学科		工学科		工学科		化学科		工学科	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
波方ターミナル(株)	1									1			
渦潮電機(株)	1												1
あいえず造船(株)	1			1									
浅川造船(株)	1	1											
潮冷熱(株)	1							1					

今治市の企業へ就職実績(大学院生)

令和元年度卒業生(理工学研究科博士前期)(工学系)

令和2年5月1日現在

会社・官庁名	合計	生産環境工学専攻						物質生命工学専攻				電子情報工学専攻					
		機械工学		環境建設工学		船舶工学		機能材料工学		応用化学		電気電子工学		情報工学		ICT	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
(株)新来島どっく	1							1									
今治造船(株)	2	2															

平成30年度卒業生(理工学研究科博士前期)(工学系)

会社・官庁名	合計	生産環境工学専攻						物質生命工学専攻				電子情報工学専攻					
		機械工学		環境建設工学		船舶工学		機能材料工学		応用化学		電気電子工学		情報工学		ICT	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
太陽石油(株)	1									1							

平成29年度卒業生(理工学研究科博士前期)(工学系)

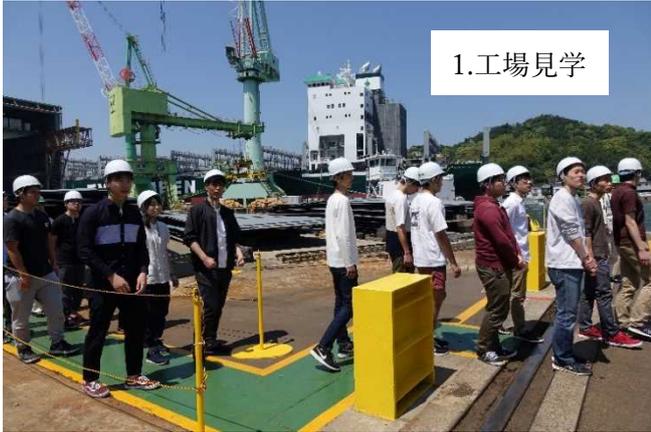
会社・官庁名	合計	生産環境工学専攻						物質生命工学専攻				電子情報工学専攻					
		機械工学		環境建設工学		船舶工学		機能材料工学		応用化学		電気電子工学		情報工学		ICT	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
太陽石油(株)	2									2							
渦潮電機(株)	1											1					
(株)新来島どっく	1							1									
今治造船(株)	4	1				2						1					
(株)ダイキアックス	1									1							
今治市(土木)	1			1													

平成28年度卒業生(理工学研究科博士前期)(工学系)

会社・官庁名	合計	生産環境工学専攻						物質生命工学専攻				電子情報工学専攻					
		機械工学		環境建設工学		船舶工学		機能材料工学		応用化学		電気電子工学		情報工学		ICT	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
今治市	1										1						

平成27年度卒業生(理工学研究科博士前期)(工学系)

会社・官庁名	合計	生産環境工学専攻						物質生命工学専攻				電子情報工学専攻					
		機械工学		環境建設工学		船舶工学		機能材料工学		応用化学		電気電子工学		情報工学		ICT	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
日本食研ホールディングス(株)	1									1							
今治造船(株)	1	1															
浅川造船(株)	1	1															
四国ガス(株)	1											1					



4. 設備・備品（令和元年度購入分）

【GPS ロガー（2 式）】

名称：アーロニア（Aaronia）社製 GPS ロガー

船上に設置して、船の前進運動、横流れ運動、回頭運動等の船の運動計測と解析に用いる。

寸法：102 x 42 x 21mm（L/W/D），重量：88g，6 センサー付き（GPS/デジタルコンパス/3D 加速度/ジャイロ/傾斜/高度），GPS センサー：感度-165dBm，確度 1.8m(CEP95)，コンパス：1-2 度精度，3D/3 軸加速度センサー：最大 4mG 分解能，3D/3 軸ジャイロ/傾斜センサー：感度 14LSBs/秒，高度計：解像度，圧力範囲 260-1260mbar，高度分解能最大 20cm，最大レート 50MB/時（圧縮なし），容量 2GB（microSD），LiPo 内蔵バッテリー（スタンドアロン）で使用可能



5. 船舶海洋工学センターコンソーシアム運営会議

- 1 日 時 令和元年7月3日(水) 15:00～16:00
- 2 場 所 今治地域地場産業振興センター2階中会議室
- 3 議 事
 - (1) 8月23日開催・コンソーシアム代表者会議及びシンポジウムの内容について
 - (2) その他質疑応答, 意見交換

6. 船舶海洋工学センターコンソーシアム会議

- 1 日 時 令和元年8月23日(金) 14:00～14:38
- 2 場 所 今治地域地場産業振興センター4階 第一研修センター
- 3 議 事
 - (1) 平成30年度センター活動報告について
 - (2) 令和元年度センター活動計画について
 - (3) 愛媛大学からのお願いについて
 - (4) その他

7. 船舶海洋工学センター運営委員会

【第1回】

- 1 日 時 令和元年6月6日(木) 10:20～11:21
- 2 場 所 工学部大会議室
- 3 議 事
 - (審議事項)
 - (1) 平成30年度第3回及び第4回議事要録の承認について
 - (2) 技術連絡会及びコンソーシアム運営会議の開催について
 - (3) コンソーシアム代表者会議及びシンポジウムの開催について
 - (4) その他
 - (報告事項)
 - (1) コンソーシアム企業訪問報告について
 - (2) バリシップ参加報告について
 - (3) 新居浜高専及び弓削商船訪問報告について

- (4) 愛媛県への連携課題の提案について
- (5) 購入設備の整備について
- (6) その他

【第2回】

- 1 日 時 令和元年9月13日(金) 9:32~10:45
- 2 場 所 工学部大会議室
- 3 議 事

(審議事項)

- (1) 令和元年度第1回議事要録の承認について
- (2) 11月 技術連絡会の開催について
- (3) 3月 コンソーシアム運営委員会及びシンポジウムの開催について
- (4) 令和元年度 予算・決算について
- (5) 3年生向け開講講義について
- (6) その他

(報告事項)

- (1) 7月3日開催 技術連絡会及びコンソーシアム運営会議報告について
- (2) 8月23日開催 コンソーシアム代表者会議及びシンポジウム報告について
- (3) その他

【第3回】

- 1 日 時 令和元年11月28日(木) 16:20~17:33
- 2 場 所 工学部大会議室
- 3 議 事

(審議事項)

- (1) 令和元年度第2回運営委員会議事要録の承認について
- (2) 客員教授の称号付与及び兼任教員の任期更新について
- (3) 国土交通省四国運輸局のコンソーシアムへの参画について
- (4) 令和2年度活動計画について
- (5) 3月 コンソーシアム運営委員会及びシンポジウムの開催について
- (6) 寄附申込みについて
- (7) その他

(報告事項)

- (1) マッチングブックの作成について
- (2) 11月6日開催 技術連絡会報告について
- (3) 12月6日開催 特別講演会について

(4) その他

【第4回（メール審議）】

1 日 時 令和2年1月20日（月）

（審議事項）

- (1) 客員教授の選考について
- (2) アドバイザーの任用更新について
- (3) その他

（報告事項）

- (1) その他

8. 新聞記事・テレビニュース等

1. 産報出版・月刊「溶接技術」 2019年11月号「愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターの開設—未来の造船業界を担う人材育成—」
2. 日刊工業新聞 2019年12月4日発行「厚板の溶接回数削減 新アーク溶接手法開発」
3. 日刊海事プレス 2019年12月6日発行「厚板の溶接回数減へ 四国溶材，溶接技術を共同研究開発」
4. 愛媛新聞 2019年12月18日発行「愛媛大船舶センターと四国溶材 溶接技術で共同研究」
5. 溶接新報 2020年1月27日発行「厚板の溶接パス数削減目指し新たな溶接法の開発進む！—来年度に製品化目指す—四国溶材・愛媛大学共同研究」
6. 日本経済新聞 2020年2月6日発行「造船 溶接回数を半減 四国溶材，愛媛大と研究」
7. 松山商工会議所所報 2020年3月号「世界の海事産業をけん引する次世代の担い手育成—高度技術の研究と人材育成により，今治地域の産業振興に貢献—」

9. 規程

愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センター規程

平成30年6月13日
制 定

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人愛媛大学基本規則第32条第2項及び愛媛大学工学部規則第20条第2項の規定に基づき、愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、船舶工学及び海洋工学の教育及び研究を推進し、地域の造船業及び関連産業の発展と諸課題解決に貢献することを目的とする。

(部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる部門を置く。

- (1) 船舶海洋システム学部門
- (2) 船舶海洋エネルギー変換学部門

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 兼任教員
- (4) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(運営委員会)

第5条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(センター長等)

第6条 センター長及び副センター長は、研究科（工学系）の専任教員のうちから、工学系長が指名する。

2 センター長及び副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長又は副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、それぞれ前任者の残任期間とする。

(兼任教員)

第7条 兼任教員は、研究科（工学系）の専任教員のうちから、工学系長が、関係するコースの長の同意を得て、任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、兼任教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第8条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長が不在又は事故があるときは、その職務を代行する。

3 兼任教員は、センターの業務を遂行する。

4 センター職員は、センターの業務に従事する。

(客員教授等)

第9条 センターに、客員教授又は客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、愛媛大学大学院理工学研究科（工学系）における愛媛大学客員教授等選考規程の定めるところによる。

(アドバイザー)

第10条 センターに、専門的な見地からセンターの運営に協力し、指導及び助言を行うため、アドバイザーを置くことができる。

2 アドバイザーは、センター長の推薦に基づき、工学部長が任命する。

3 アドバイザーの任期は1年以内とし、再任を妨げない。

(コンソーシアム)

第11条 センターに、愛媛大学及び愛媛県内の関係機関が一体となり、地域の造船業及び関連産業の発展、共同研究の推進並びに諸課題解決に貢献できる人材を養成するために、教育プログラムの充実やセンター活動への提言を行うことを目的に、愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターコンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）を置く。

2 コンソーシアムに関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第12条 センターに関する事務は、工学部事務課において処理する。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成30年6月13日から施行する。

2 この規程の施行後最初に任命されるセンター長及び副センター長の任期は、第6条第2項の規定にかかわらず、平成32年3月31日までとする。

3 この規程の施行後最初に任命される兼任教員の任期は、第7条第2項の規定にかかわらず、平成32年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成30年10月1日から施行する。

愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターコンソーシアム規程

平成30年10月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センター規程第11条第2項の規定に基づき、愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターコンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 コンソーシアムは、愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センター（以下「センター」という。）を中心として、愛媛大学及び愛媛県内の関係機関が一体となり、地域の造船業及び関連産業の発展、共同研究の推進並びに諸課題解決に貢献できる人材を養成するために、教育プログラムの充実やセンター活動への提言を行うことにより、センターのより効果的な取組に向けた体制整備に資することを目的とする。

(構成)

第3条 コンソーシアムは、別表に定める機関をもって構成する。

(業務)

第4条 コンソーシアムは、第2条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域の造船業及び関連産業の活性化に関すること。
- (2) 共同研究の推進に関すること。
- (3) 諸課題解決に貢献できる人材の育成に関すること。
- (4) センターの諸活動の評価に関すること。
- (5) その他第2条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

(組織)

第5条 コンソーシアムに次の各号に掲げる者を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長 若干人

(職務)

第6条 会長は、コンソーシアムの業務を統括する。

- 2 副会長は、会長の職務を補佐し、会長が指示するコンソーシアムの重要な業務を処理する。

(会長等)

第7条 会長は、愛媛大学長をもって充てる。

- 2 副会長は、第3条別表に定める代表者（愛媛大学長を除く。）のうちから、コンソーシアム会議において選出する。
- 3 副会長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(コンソーシアム会議)

第8条 コンソーシアムに，コンソーシアム会議を置く。

2 コンソーシアム会議に関し必要な事項は，別に定める。

(事務)

第9条 コンソーシアムに関する事務は，工学部事務課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか，コンソーシアムに関し必要な事項は，別に定める。

附 則

1 この規程は，平成30年10月1日から施行する。

2 この規程の施行後最初に選出される副会長の任期は，第7条第3項の規定にかかわらず，平成32年3月31日までとする。

附 則

この規程は，平成31年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

機関名	代表者
愛媛大学	愛媛大学長
愛媛県	愛媛県知事
今治市	今治市長
浅川造船株式会社	浅川造船株式会社代表取締役社長
今治造船株式会社	今治造船株式会社代表取締役社長
株式会社新来島どっく	株式会社新来島どっく代表取締役社長
檜垣造船株式会社	檜垣造船株式会社代表取締役社長
潮冷熱株式会社	潮冷熱株式会社代表取締役社長
BEMAC株式会社	BEMAC株式会社代表取締役社長
四国溶材株式会社	四国溶材株式会社代表取締役社長
眞鍋造機株式会社	眞鍋造機株式会社代表取締役社長
株式会社伊予銀行	株式会社伊予銀行頭取
株式会社愛媛銀行	株式会社愛媛銀行頭取
愛媛信用金庫	愛媛信用金庫理事長

愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターコンソーシアム会議規程

〔平成30年10月1日
制 定〕

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターコンソーシアム規程（以下「コンソーシアム規程」という。）第8条第2項の規定に基づき、愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センターコンソーシアム会議（以下「コンソーシアム会議」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(協議事項)

第2条 コンソーシアム会議は、コンソーシアム規程第2条に掲げる目的を達成するため、議長から提示された事項について協議する。

(組織)

第3条 コンソーシアム会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) コンソーシアム規程第3条別表に定める代表者（会長及び副会長を除く。）
- (4) その他議長が必要と認めた者

2 前項第4号の委員は、コンソーシアム会議の議を経て、学長が委嘱する。

3 第1項第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第4条 コンソーシアム会議に議長を置き、会長をもって充てる。

2 議長は、コンソーシアム会議を招集し、主宰する。

3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する副会長がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者をコンソーシアム会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(開催)

第6条 コンソーシアム会議は、必要に応じて開催するものとする。

2 第3条第1項第2号及び第3号の委員がやむを得ない事由により出席できないときは、代理の者を委員として出席させることができる。

(運営会議)

第7条 コンソーシアム会議に、あらかじめ意見を調整することを目的として、運営会議を置く。

2 運営会議は、コンソーシアム規程第3条別表に定める代表者からそれぞれ指名された当

該機関の担当者をもって構成する。

3 運営会議に議長を置き，工学部長をもって充てる。

4 第2項に定める委員の任期は，第3条第3項に規定する当該機関の代表者の任期と同様とする。

第8条 コンソーシアム会議に関する事務は，工学部事務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか，コンソーシアム会議に関し必要な事項は，議長が定める。

附 則

1 この規程は，平成30年10月1日から施行する。

2 この規程の施行後最初に選出される第3条第1項第4号の委員の任期は，同条第3項の規定にかかわらず，平成32年3月31日までとする。

<http://www.naoe.eng.ehime-u.ac.jp>

愛媛大学工学部附属船舶海洋工学センター

Center for Naval Architecture and Ocean Engineering

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

TEL : 089-927-9676 E-mail : naoe@stu.ehime-u.ac.jp

